

清水の

豪援隊かわら版



清水ヒデキ

豪援隊隊長・

弁護士・移民コンサルタント
(MARN: 9900985)

「オーストラリアから日本を援けよう」と豪援隊発足。16歳に単身オーストラリアに留学。その後ボンド大学卒業後、QLD州弁護士資格取得。長年に渡り、日本人ならびに日系企業、世界各国のクライアントのコンサルタント業務に従事。

<今月の思わず笑ってしまいました!>

その1 うちの猫

うちの猫はとてなまけものです。家に出るねずみもまったくつかまえずとしないので、粘着性のネズミ捕りを仕掛けることにしました。その翌日、ねずみではなくうちの猫がそのネズミ捕りに引っかかっていた。困ったものです。
(ラジオの投稿から)

その2 「立って言ってください」

私は外国人に日本語を教える日本語教師です。ある時、とある外国人生徒の発言内容が良かったので、他の生徒みんなに聞こえるようにその生徒に「立って言ってください」とたずねました。すると、その生徒は立たずに座ったまま平然な顔をしたまま「たっ」と言いました。他の生徒も事情が分からず、その面白さが分かったのは私だけでした。

(海野凧子氏著 日本人も知らない日本語からのエピソード)

<今月の視点>

5月といえば、連邦予算発表がありました。政府ならびに野党にも、それぞれの思惑があったわけですが、今回は現政権最後の予算としてマスコミは一斉に現政権叩きを始めました。

予算発表後の翌日の新聞記事に目を通しますと、今回の予算に関してはあたりさわりのない予算であったのに関わらず、かなり厳しい論調が相次ぎました。カーボン税の大きな見込み違いによる税収ダウン、それにより公約していた予算を2013年度までに黒字に戻すこともできないまま、政権を奪われる日が近づいているというのが現状のようです。ある記者は、今回の予算で一番いい知らせは、これがSwan財相にとっての「最後の予算になることだ」とまでいう始末です。「Swan財相の手腕」、一時期は国際金融危機を乗り切った世界で一番有能な財相とまで言われたのですが、オーストラリア国民は冷ややかにそれも受け止めていました。なぜなら、金融危機を乗り切れたのは、端に自由党がそれまでに作っておいた貯金を使うことができたというのが実情であったからです。その貯金を使い切った後から悲劇は始まりました。そうです、使えるお金がなくなってしまったのです。それ以降、2013年度を目処に黒字に財政を戻すことを公約に、中途半端な予算を組んできました。黒字にもどすことよりも、今必要な財政出動をさせてほしいという声が大きかった中、それをせず一種の緊縮財政を取り続けてきました。それが、現在までに尾を引いている結果になってしまいました。

そもそも、2007年の総選挙で労働党が自由党ハワード政権を破り、政権の座を奪取しました。そのときの労働党党首がラッド前首相。ラッド氏の国民人気は、すごいものでしたが、人格的に周りの人間を大事にしないためか、労働党の党首の座をギラード女史に奪われる始末。そこから、初のオーストラリア女性総理大臣としてギラード首相が現在までの舵取りを担ってきました。ギラード首相は、あたりさわりのないことをさせたら大したものですが、それでは国の方向性がはっきりしないためにすっかり国自体が迷走をするはめに。人気投票では、もう自由党党首のアボット氏に勝ち目がないところまで落ち込んでしまいました。

(右上に続く→)

数々の労働党内のお家騒動で、国民も少し嫌気がさしているのも確かでしょう。予算だけではなく、現政権がやること、なすこと、とにかく反対をする人が多くなっています。感情的に嫌気がさしてしまっているということで、状況はもうすでに手遅れ状態というのが現状です。そのためか、今回の予算には即効性のあるものは含まれず、多年度に渡って財源を確保する形での予算案が多く組まれています。それにより、政権交代後の自由党もこうした「いたちの最後っ屁」のような予算に拘束されてしまいます。そこまで、嫌われなくてもいいのではと思いますが、破れかぶれになった人間たちほど怖いものです。後先が考えずに、行動を起こしてしまいます。

そこで、今回の予算の呼び名を「いたちの最後っ屁予算」と当方勝手に命名いたしました。総選挙も早いもの、数ヵ月後のことになりました。ますます、オーストラリアの政界からも目が離せません。

<今月の新着情報>

今月発表された連邦予算に関連して、以下ビザ移民に関連する内容の発表もありました。いくつかを抜粋してお知らせしておきます。

- 来年度の移民受け入れ総数を今年度同様19万人とする。
- スキル移住者を700名減らして128,550とする。
- 家族移住をその分700名増やして60,885とする。
- 指紋等による身分照システムの実装
- サブクラス457ビザの申請費用増加等

今後改正を検討している分野として下記が挙げられる。

- 学生ビザの再検討
- ビザシステム簡素化
- スキルターゲット
- 労働市場政策の枠組み作り
- 長期移住政策枠組み作り等

追加情報等は追ってHPにて随時お知らせします。

<今月の注目記事>

「子供の養育費用が 50%増加」

[NEWS.com.au](http://www.news.com.au)

2013 年 5 月 23 日付け

http://www.news.com.au/money/cost-of-living/cost-of-raising-kids-rises-50-per-cent-income-and-wealth-report-says/story-fnagkbpv-1226648783413?from=public_rss

オーストラリアで 2 人の子供を 24 歳まで面倒みると、いくらかかるでしょう？最新のレポートによれば、\$81 万 2 千ドル(約 8100 万円)だそうです。この金額は 2007 年に算出された際には \$27 万 5 千ドルであったわけですが、今年算出された金額によりますと 50% 以上の金額に跳ね上がっているということです。

上記金額の算出内訳に関しては、食費、交通費、娯楽費等が含まれますが、昨今の物価上昇により、前回よりも食費に関しては \$143,000 の増額、交通費に関しては \$159,000 の増額になったということです。

これを見ると、ますますオーストラリアにおける子育ては安くないものになっていることが分かります。

<今月の言葉>

「お前は見られている」が宗教。

「見られていなくても」が道徳。

「どう見ているか」が哲学。

「見えているものは何か」が科学。

「見えるようにする」のが数学。

「見ることが出来たら」が文学。

「見えている事にする」のが統計学。

「見られると興奮する」のが変態。

(インターネットジョーク集より)

<今月のなるほど>

皆さんも良くご存知の宝塚歌劇団の舞台裏には、「撫すの 25 か条」というものが貼ってあったそうです。これは結構有名なのでご存じの方もおられるかもしれませんが、女性だけではなく男性にも当てはまるようです。

1. 笑顔がない
2. お礼を言わない
3. 美味しいと言わない
4. 精気がない
5. 自信がない
6. 愚痴をこぼす
7. 希望や信念がない
8. いつも周囲が悪いと思っている
9. 自分がブスであることを知らない
10. 声が小さくイジけている
11. なんでもないことに傷つく
12. 他人に嫉妬する
13. 目が輝いていない
14. いつも口がへの字の形がしている
15. 責任転嫁がうまい
16. 他人をうらやむ
17. 悲観的に物事を考える
18. 問題意識を持っていない
19. 他人につくさない
20. 他人を信じない
21. 人生においても仕事においても意欲がない
22. 謙虚さがなく傲慢である
23. 他人のアドバイスや忠告を受け入れない
24. 自分が最も正しいと信じ込んでいる
25. 存在自体が周囲を暗くする

<今月のなぞかけ>

先月号の御題は「ギラード首相」でした。秀逸作品はまたまた K さんからいただいたこちらです。

「ギラード首相」とかけて、信号とときます。そのころは、赤(信号の赤とギラード首相の赤毛)はストップです。

お見事。

来月の御題は「オーストラリアの冬」です。皆様からの本家ねずちをうならせるような作品をお待ちしております。

<今月の名言>

「いい出会いにするためには、自分が苦勞をして出会いを育てなければならない。

— 出会っただけでは信頼関係を結べない。『このご縁を大事にしようという』気持ちを育てていこう。」

「人生にポッカー開いた穴からこれまでは見えていなかったものがみえてくる。

— 思わぬ不幸な出来事や失敗から、本当に大切なことに気付くことがある。」

(置かれた場所で咲きなさい 渡辺 和子著)

このかわら版、またはピザに関する質問、お問い合わせは、こちらまでお気軽に！

ゴールドコースト事務所 住所: Suite7, 155 Varsity Parade Varsity Lakes QLD 4227

電話: 1300 365 811, +61-7-5630-6505, Fax: +61-7-3319-6131 (担当: 関)

E mail : info@alcvisa.com Website : www.alcvisa.com